

# みんなで考える 一番街の交通

都市交通政策課・TEL224-5519

昨年11月7日(土)から23日(祝)まで行われた、交通社会実験。「川越の交通をみんなで考える17日間」として、一番街周辺で一方通行と歩行者天国を実施しました。期間中は、近隣の皆さんをはじめ市民の皆さんのご協力、ありがとうございます。

自動車を中心とした交通が発達している現代。江戸時代の町割りが今に残る川越も、車や人が増え続けています。町並みを保全しつつ、まちづくりを進めている北部中心市街地は、歩行者の安全な通行が難しい状況です。今回の社会実験は、車・人・まちのより良い関係を模索することが目的でした。皆さんはどのように感じ、考えたでしょうか。

市では、実験にあたり主要交差点における交通量・自動車走行速度の観測調査や、近隣住民・歩行者・パト利用者などを対象としたアンケート調査を実施しました。また、歴史的な建築物への影響を考慮して、車両の通行に伴う振動の調査も行いました。今後、これらのデータを分析し、交通社会実験の結果について検証していきます。

今回は、多くの皆さんから寄せられた意見と、速報値を基にした交通量についてお知らせします。

市民の皆さんも、これからの一番街周辺の交通について、一緒に考えてみませんか。

## 交通社会実験の概要

昨年11月7日から23日までの17日間、札の辻交差点から仲町交差点までを一方通行にしました。また、11月14日(土)・15日(日)・21日(土)・23日(祝)は、午前10時から午後4時まで、同区間を車両通行止めにもしました。幹線道路としてだけでなく、観光の拠点として交通が集中している一番街。交通環境を改善するためには、何らかの変革が必要です。今回の実験は、皆さんに変革の一例を体感してもらうために実施しました。

## 実験に対する意見

交通社会実験中、地域住民の皆さん・歩行者・バス利用者などに対して、アンケートを実施しました。現在、集計作業を進めています。ここでは、アンケートの自由意見の中から、同様の意見が多数寄せられたものを紹介します。

### 否定的な意見

- 観光客より市民のために税金を使うべき(地域住民)
- 渋滞がひどくて日常生活に支障が出た(地域住民)
- 来店者が減った(地域住民)
- 観光客のマナーが悪い(地域住民)
- 自転車を通りづらい(地域住民)
- 車が通れないのは困る(歩行者)
- バス停が遠くなつて不便(バス利用者)
- 混雑して時間が読めない(バス利用者)

### 肯定的な意見

否定的な意見としては、観光客のマナーについての意見や、観光対策のために交通規制を行うことへの反対意見が多く寄せられました。

### 肯定的な意見

- 土・日曜日のみ一方通行または歩行者天国にしてほしい(地域住民)
- 交通量が減り静かになった(地域住民)
- 一方通行時、周辺道路はそれほど混雑していない(地域住民)
- 安心して歩ける蔵のまちにしてほしい(歩行者)
- 車が多すぎるとせつかくの景観が台無し(歩行者)
- 住民利便性を確保でき、安心して歩ける一方通行が良い(歩行者)
- 一番街の安全のために交通規制は必要(バス利用者)
- 影響が許容の範囲なので良いと思う(バス利用者)

## 実験が与えた影響

観光客対策として昨年春と夏に実施した、一番街の歩行者天国。しか

し、単純な交通規制をしたため、周辺道路で渋滞が発生しました。今回の交通社会実験では、看板による交通誘導と、郊外型駐車場を利用時のパーク&ライド実験を併せて実施し、中心市街地の通過交通の抑制を図りました。これにより期間中は、全体の交通量は減少しました。しかし、土・日曜日、祝日の五日間で実施した車両通行止めの時間帯では、渋滞が発生し、通常より移動に要する時間が増えました。また、郊外型駐車場の利用者も少ないという問題がありました。

これらの問題が生じた原因は、交通誘導や周知、パーク&ライドなどの交通対策が不十分であったことが考えられます。

なお、一方通行のときは、車両通行止めのおきほど、周辺道路の交通に大きな影響はありませんでした。

